

令和2年度 学校評価計画表

奈良県立奈良朱雀高等学校（全日制課程）

学校運営方針（4月）						総合評価		
教育目標		○ 人権を尊重する民主的な社会の形成者として、豊かな人間性と創造性を備えた生徒を育成する。 ○ ものづくりとビジネスの実習・演習をとおして、専門的な知識や技術・技能を身に付けた社会に貢献できる生徒を育成する。						
学校運営方針		・ 地域社会・地域産業と連携・協働し、高等学校普通科教育並びに工業科・商業科等に関する実践的な教育を展開し、地域を担う将来のスペシャリストを育成する。 ・ 生徒一人ひとりの成長を支援し、生徒自らが自身の成長を実感できる教育を推進する。						
昨年度の成果と課題		本年度の重点目標			具体的目標			
<p>生徒アンケートの授業満足度において一定の成果が得られた。デュアルシステム、商と工の協働的な課題研究についても、試行的ではあるが取組が進んでいる。また、地域との連携についても継続的に実施できた。工学系におけるインターンシップについては一定の成果を収めることができたが、ビジネス系においては実施率に課題が残る。工学系、ビジネス系ともに各種検定・資格試験の合格率が目標に届かない等の課題を残すこととなった。</p> <p>主体的で意欲的な生徒の育成と、工学系とビジネス系が併設された特色のある学校づくりの推進を図るため、専門教育の活性化をはじめとして、あらゆる教育活動において、全職員が教育目標を共有し、協働的な教育活動をすすめていかなければならない。</p>		(1) 工学系とビジネス系等に関する基礎的基本的な知識や技術・技能を身に付けさせ、社会の様々な変化や多様な課題に対応することのできる力を育成する。			・ 専門教育の活性化を図るとともに、商工協働型の課題学習の在り方を検討する。 ・ インターンシップ・デュアルシステムを推進し、地域社会・地域産業との連携・協働をすすめる。			
		(2) 規範意識を高めさせるとともに、社会の一員としての自己の役割について認識させる。			・ あいさつ、身だしなみ、清掃、時間厳守などの指導を徹底し、社会性と規範意識の向上を目指し、地域からの信頼を得るとともに、自己の有用性を高めさせる。			
		(3) 目的意識を持ち協働的に粘り強く取り組むことができる精神力や体力、協調性を養う。			・ 部活動の活性化により、達成感、連帯感、協調性を育む。また、身体測定、健康診断、体力テスト等を用いて自己の体の状況を適切に把握させ、体力の重要性を認識させる。			
		(4) 安全教育の充実を図るとともに、安心して学校生活を送ることのできる環境の整備に努め、安全衛生管理体制を確立する。			・ 本耐震工事への対応を生徒の安全性を最優先に考えて行うとともに、あらゆる活動場面において環境の整備を適切に行う。また、生徒の防災、減災意識を高める指導を徹底する。			
		(5) 学校の魅力や特色を校外に積極的に発信するとともに、地域の一員としての学校の在り方を創造する。			・ 学校ホームページをはじめとする広報活動を充実させるとともに、地域行事への参加、ボランティア活動等を積極的に行い、地域の一員としての役割を果たす。			
		(6) 教職員の健康管理を意識した働き方改革を推進するため勤務時間等の管理を徹底し、より質の高い教育活動を行う。			・ 各分掌、学年等が担う業務をあらためて明確にするとともに、適宜個人面談や連絡会等の機会を設けて教職員間の円滑な連携や協働体制を構築する。			
教育活動・分掌等	評価項目	具体的方策・評価指標等			自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	課題の改善策等	前年度実績と学校関係者評価
教務	・ 成績不振生徒の減少を図る。	・ 各学期成績不振生徒（欠点科目1科目以上）を10%以下にする。						
	・ 家庭学習の充実を図る。	・ 本年度各学年「まったくやっていない」生徒を0%に近づける。						
	・ 授業の充実を図る。	・ 授業アンケート質問事項「総合的に言って、この授業に満足している」〈A そう思う〉・〈B だいたいそう思う〉合わせて80%を目指す。						
生徒指導	・ 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	・ 遅刻防止の指導を徹底する。 (遅刻回数を全体で昨年度比10%の減少を目指す。)						
		・ 担任による毎朝の服装点検を行う。						
		・ あいさつの励行（あいさつ運動を展開する。)						
		・ 集会等による自転車通学マナー・乗車マナー向上の啓発活動を行う。						
		・ 毎朝の登校指導、校外巡視による通学マナー向上の啓発活動を行う。						
		・ 交通安全教室等の実施により、登下校時の安全確保の取組を実施する。						
		・ 「スマホ・ケータイ安全教室」の実施により情報モラルを身に付けさせる。						
進路指導	・ 卒業までに就職希望者全員の就職先を決定する。	・ 就職希望者に対して面接指導や学習指導を強化し、近年多様化する就職試験に対応できる力を身に付けさせる。						
	・ インターンシップやデュアルシステムを通して、職業観・勤労観を養う。	・ 各科、学年と連携し、インターンシップ、デュアルシステムをさらに充実させる。						
	・ キャリア教育を充実させる。	・ 様々な教育活動を通して好ましいキャリアの形成を計る。						
	・ 専門高校推薦・公募推薦での合格者を昨年度より増加させる。	・ 進学希望者に対しての講座を充実させて、国公立大学を含めた専門高校推薦・公募推薦に対応できる実力を付けさせる。						

人権教育 (特別支援)	・ 基本的人権尊重の精神を根本とし、生徒の全人的な成長を保障するための教育活動の充実に努め、豊かな人権感覚を持った人間の育成を図る。	・ 生徒の実態や社会の変化に即した人権HRを企画・立案する。					
	・ 特別支援体制の充実と共通理解	・ 職員研修、人権啓発集会を実施する。特に職員研修（職員全体向け）を年1回以上行う。					
	・ 配慮を要する生徒の把握に努め、生徒、保護者との共通理解により支援と指導を充実させる。						
図 書	・ 読書活動を通して、思春期における豊かな感受性を育み、自己の内面や社会を見つめる機会をもつことによって自己陶冶に努めさせる。	・ 朝のMSRなどを通じて、図書への関心を増すための読書活動を推進する。 (目標アンケート内肯定的評価 80%以上)					
		・ 図書館利用の授業を推進し、読書習慣の定着に努める。 (目標図書館利用授業回数延べ10回以上)					
特別活動	・ 生徒会活動、各種委員会の活性化を進める。	・ 生徒会役員がリーダーとして自主的・自発的に学校活性化への取り組むための意識向上に努める。					
	・ 部活動の活性化を進める。	・ 各行事、活動において各種委員会と生徒会が連動して取り組む。					
		・ 部活動への加入率の維持および向上を目指す。 (男子 70%、女子 60%)					
保健体育	・ 生徒の健康保持増進を高めるため基本的生活習慣を整え、運動習慣の構築を促す。	・ 健康調査票等の集約を周知し早期に共通理解を得る。 ・ 食育に関するアンケート調査を実施する。 ・ スポーツテストによって運動習慣のアンケート調査を実施する。					
	・ クラブ加入率を上げ、基礎体力の向上を図る。	・ 男子 55%、女子 30%の運動部加入を目指す。 ・ 運動に関心をもたせることにより運動習慣を構築させる。体力テストにおいて前年学年別平均点より3ポイントの向上を目指す。					
	・ 健康調査等の取組を計画的、継続的に行う。	・ 治療勧告書を適切に取り扱い、家庭との連携を密にし、理解と協力を図る。寛解、治癒の報告数を高める。 ・ 感染症予防に努める。					
環境整備 (防災管理・ 安全教育)	・ 環境美化の啓発	・ 学習環境の向上をすすめる。(机・椅子の整備を適宜行う。) ・ ゴミの分別・減量をすすめる。(生徒に対する呼びかけを適宜行う。) ・ 清掃用具の整備を迅速かつ適切に行う。					
		・ 植栽活動を行い、環境向上を目指す。 ・ 「花いっぱい運動」を実施する。					
	・ 防災、安全教育の充実	・ 教室掲示や避難訓練による避難経路の意識付けを行う。 ・ 防災HRの実施し、防災意識の向上を目指す。					
総 務	・ 広報活動の展開	・ 緊急事態に即応できる連絡体制の充実を図る。 (ホームページとメールを活用した生徒・保護者連絡システムを広げる。)					
		・ 学校と育友会の協力体制の充実を図る。 (育友会本部役員・クラス役員の意欲的な活動のサポートを継続させる。)					
		・ 100周年記念事業に向けての準備を推進する。 (同窓会との連携を深める。)					
		・ 学校への関心が高まる広報活動を推進する。 (ホームページの内容充実のための啓発研修を深め、内容充実に努める。)					
機械工学科	・ 学科の特色や魅力の発信と活性化	・ 学科のホームページを積極的に更新する。 2回以上/年					
		・ 地域において、製作物やパネルの展示をする。 2回以上/年					
		・ 取組の様子を、校内でも積極的に啓発する。 2回以上/年					

	・地域社会との連携教育推進	・デュアルシステムを積極的に推進する。 2社以上/年					
	・動画教材の開発	・各科目における基礎基本や要点を精選し、効果的な動画教材を試作する。 2本以上/年					
建築工学科	・伝統技術・先端技術・起業家育成の3つのコンセプトから取組を行う。	・コンセプトの取組などから本校本学科で学んでよかったと答える生徒を育てる。 75%以上 ・その取組がマスコミに掲載されるようにする。 5回以上/年					
情報工学科	・資格取得をとおした学びの充実として、多くの生徒に各種技能検定等の国家資格を取得させる。	・多くの生徒が国家資格を取得できるように指導する。 2年生の取得者 35%以上 ・各種技能士への習得意欲を高めることで、技能検定試験受験者の増加を図る。 技能士合格者10人以上/年					
	・学校の魅力や特色を発信する活動をする。	・県内の小中学校または、市町村教育委員会の要望を聞き、連携しながらロボットプログラミング教室等を実施することで、情報工学科の魅力や特色を説明する。 2回以上/年 ・奈良県職業能力開発協会や県内企業等から発表の機会を与えられたら、積極的に参加して、情報工学科の魅力や特色を伝える。 2回以上/年					
	・全商協会主催検定合格率の向上	・基礎、基本の定着と授業法の工夫及び授業改善に努めるとともに、その成果として全商検定上位合格率の向上を目指す。 全商簿記検定1級 平均合格率 30% 全商情報処理検定1級(ビジネス情報) 平均合格率 30% 全商情報処理検定1級(プログラミング) 平均合格率 30%					
商業科	・全商協会主催各種競技会への意欲的な参加	・日頃の授業の取組や各クラブ活動を通じて、各種競技会へ意欲的な参加を促す。					
第1学年	・基本的な生活習慣の確立	・挨拶を励行する。 ・コミュニケーション能力を育成する。 ・休憩時間と授業時間とのけじめをつける。 ・欠席・遅刻・早退をさせない雰囲気づくりを行う。					
	・基礎学力の向上	・成績不振科目を出さない指導体制を確立する。 ・担任と教科担当との連携を密にし、授業時の生徒の実態を共有する。 ・生徒にメモをとる習慣を身に付けさせ、学習のPDCAサイクルを確立させる。					
	・専門科目に対する理解と取組	・実技科目、専門科目の理解と検定取得への雰囲気づくりを行う。					
	・統一した指導の徹底	・両担任を中心とした学年としての指導体制を確立する。 ・MSRの雰囲気づくりに努め、読書習慣を身に付けさせる。 ・1分間スピーチを実施し、プレゼン能力を高める。 ・家庭との連携を密にし、学校での指導に理解を求める。 ・学年集団が日頃からコミュニケーションをとり、生徒に関する情報を共有する。					
第2学年	・基本的な生活習慣の確立	・挨拶を励行する。 ・適切な生活習慣を身に付けさせ、遅刻、欠席、早退を減少させる。 ・保健室への来室数を減少させる。 ・朝食をしっかりとらせる。					
	・基礎学力の向上	・授業態度の向上及び成績向上に向けての雰囲気づくりを行う。 ・ノート、課題、レポート等の提出に対する指導を徹底する。 ・実技科目への取組の向上を目指す。					
	・進路実現に向けての取組	・進路指導部や各教科、関係機関との連携を深める。 ・3学期からMSRの弾力的な運用を行い、進路選択への意識付けを行う。					

		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携を円滑に行う。 						
	<ul style="list-style-type: none"> ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルバイトは極力させず、学習、クラブ活動を重視させる。 ・配慮を要する生徒への指導を職員間の連携を密にし、適切に行う。 ・行事を充実させ、生徒の主体性・積極性を培う。 						
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・素直で明るく、校歌を積極的に歌える学年づくりを行う。 ・挨拶、身だしなみ、掃除の励行をすすめる。 ・起立、礼、着席など、けじめのある学習生活の徹底を行う。 ・時間厳守の指導を徹底する。(遅刻回数、学年全体500回以下) 						
	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着と専門的な知識や技術・技能の習得を目指した学習指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員卒業を目指す指導体制の構築と欠点解消率の向上を目指す。 ・在宅学習による課題の確認と提出物に対する指導を徹底する。 ・家庭学習調査による実態把握をすすめ、適切な指導を行う。 ・授業態度の向上と欠点を取らない雰囲気づくりをすすめる。 						
	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けての取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が進路先を決定する指導体制を構築する。 ・生徒の進路に対する意識を高めるための環境づくりを徹底して行う。 ・MSRの時間を弾力的に生かし、一般常識問題の演習を実施する。 						
	<ul style="list-style-type: none"> ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮を要する生徒についての情報共有と共通理解をすすめる。 ・教室整備を徹底して行う。 (ロッカーの使用方法、ゴミの分別、教室清掃等) ・保護者との密な連携をすすめる。 (特に欠席、遅刻の連絡徹底と進路選択における連携) 						